

日仏最高峰の出逢いが 生んだ「不滅のドレス」

——中野香織（服飾史家）

この格調高く堂々としたローブ・デコルテ姿、当時の日本国民にとってどれほど誇らしかっただろうと思います。デザイナーはクリスチャン・ディオール。1957年に急逝したため、後継者のイヴ・サンローランがドレスを完成させました。生地は日本の老舗、龍村美術織物の「明暉瑞鳥錦」。絹に金糸で龍や鳳凰が流れるように織り込まれている豪華な芸術品です。

洋のデザインと和の素材、世界最高峰の技の結集を華麗に着こなした美智子さまは、敗戦国だった日本が「自由で新しい時代」を迎えたと国内外に知らしめました。その後も和の伝統色や技術をあえて洋装に大胆に取り入れ、退位礼正殿の儀では日本の職人技「ちぎり箔」が輝くドレスでお出ましに。金の糸に始まり銀の箔で結ぶ……。見事な和洋の融合にため息が出ます。

1959年4月 ご成婚されたばかりの御二方
写真提供 ゲッティ

